

| 質問の件名及び質問の要旨（質問時間） | 答弁を求める者 |
|--|---------|
| <p>1 公園の潜在力を引き出すために（45分）</p> <p>都市公園は、緑地、防災性、健康や子育てと多様な役割を担います。市で管理している公園の半数近くが設置された30年前と現在では、人口減少、高齢化、財政状況の悪化と社会状況は大きく変化し、特に厳しい財政状況の中での効率的な整備、老朽化した施設の適切なメンテナンスは、全国的にも課題となっています。</p> <p>平成27年第2回定例会で「誰もが行きたくなる公園を」という一般質問を致しました。</p> <p>公園施設長寿命化計画策定事業に着手しているところで、その背景や目的について、「いずれ大規模な改修や更新が必要となる。老朽化に対する安全対策の強化と改修や更新に係るコストの縮減、平準化を図るために市内の主要な33公園を対象にした計画」とご答弁がありました。</p> <p>そして今、公園はどうなっているのだろうという市民の方からのおたずねから、10月、いっしょに6か所ほどまわってきました。</p> <p>私の住んでいる地域の富士見中央近隣公園、松ヶ丘の鶴ヶ島南近隣公園のトイレはリニューアルしていました。脚折近隣公園は工事中でした。</p> <p>樹木、砂場、自動販売機（ごみ箱）、トイレを見て回り、放射線量も測定してみました。</p> <p>気がかりな点は、都市施設保全課の窓口でお伝えしましたが、市民の皆さんの感想からわかったことがあります。それは、市民センター等の施設と異なり常駐者がいない公園施設は、主体者が見えてこないことです。</p> <p>メンテナンスが進む中、改めて公園の潜在力について、公園ウォッチングに参加した皆さんと考えました。</p> <p>これからの公園に求められるものについて先進事例を調べ、国土交通省都市局公園緑地・景観課でとりまとめた、新たな時代の都市マネジメントに対応した都市公園等のあり方を読みました。いわゆる、あり方検討会の最終報告書として、「新たなステージに向けた緑とオープンスペース政策の展開について」が公開されています。報告の中では、整備された社会資本が機能することによって、整備直後から継続的に中長期にわたり得られる効果（ストック効果）を重点に、都市公園を柔軟に使いこなすことを促しています。</p> <p>また、同課の都市公園のストック効果向上に向けた手引きでは、安全・安心効果、生活の質の向上効果、生産拡大効果の3つのストック効</p> | 市長 |

| 質問の件名及び質問の要旨（質問時間） | 答弁を求める者 |
|---|---------|
| <p>果は、相互に関連しており、厳密に分けられるものではないとも記されています。</p> <p>公園の管理・整備という視点から、緑とオープンスペースの政策へと移行することで、どのような地域になるのでしょうか。</p> <p>「都市公園の長寿命化と安心・安全な公園づくり」事業の成果と課題、そして、これからの施策についてうかがいます。</p> <p>(1) 都市公園の長寿命化と安心・安全な公園づくり事業について</p> <p>ア 事業の成果について</p> <p>イ 事業の課題について</p> <p>(2) 公園ウォッチングからの市民の疑問について</p> <p>ア 快適な環境と景観の保全について</p> <p>イ 自動販売機の配線について</p> <p>(3) 都市公園のストック効果について</p> <p>ア 安全安心効果について</p> <p>イ 生活の質の向上について</p> <p>ウ 生産拡大効果について</p> <p>(4) 都市公園のストック効果を高める工夫について</p> <p>ア パークマネジメントについて</p> <p>イ 様々な主体や施設との連携について</p> <p>ウ ストックの再編について</p> | |
| <p>2 ごみ焼却からのエネルギー生産について（15分）</p> <p>10月11・12日、長岡市で開催された第80回全国都市問題会議に参加し、長岡市主催の行政視察で「生ごみバイオガス発電センター」を見学してきました。</p> <p>長岡市では、平成25年から「生ごみ」からエネルギーをつくり出す取り組みを始め、1日約45トン进行处理しています。</p> <p>平成24年度と比較して、燃やすごみは約3割減少、燃やすごみから生ごみを資源としたことで、一般家庭約420世帯分にあたる、年間2千トンの二酸化炭素を削減したことになります。</p> <p>発電の実績は、一般家庭約1千世帯分にあたる年間410万キロワットにもなり、平成26年からは余剰電力を売電しています。処分から再生へと転換する、循環型のまちづくりを実践していました。</p> | 市長 |

| 質問の件名及び質問の要旨（質問時間） | 答弁を求める者 |
|---|---------|
| <p>埼玉県でも 5 市町で構成する秩父広域市町村圏組合が、ごみ焼却施設「秩父クリーンセンター」の改修工事に併せて焼却熱を利用する発電設備を新設し、財政負担を軽減するほか、熱エネルギーを有効活用し、二酸化炭素（CO2）の削減に取り組み始めています。</p> <p>秩父市が出資する地域新電力会社「秩父新電力株式会社」が平成 30 年 4 月 4 日付けで設立されました。地域で作られた再生可能エネルギーをそのまま地域で使うことにより、環境に配慮したまちづくりの実現を目指しています。</p> <p>地域新電力会社は、単に電力を供給する目的だけではなく、地域の課題解決に向けた、ひとつのツールと位置付けています。自治体出資の会社、ドイツのシュタットベルケを目指しているということです。</p> <p>こういった持続可能性を有する事業は、次世代に繋ぐプロジェクトとなります。</p> <p>鶴ヶ島市のごみ焼却は、埼玉西部環境保全組合の運営の下に置かれています。</p> <p>現在進められている鳩山町の更新施設では、焼却灰の利用化も含めてリサイクル率の向上を図り、また、発電も実施し、熱効率によるサーマルリサイクルを実践していくと聞いております。</p> <p>一部事務組合の事業ではございますが、鶴ヶ島市民の関心も高い事業であることから、ごみ焼却から発電に関する市の考えについてうかがいます。</p> | |